特42
907

▲掛りさうな大店
表の者に家内の
へと直の借金
しそのうてまた会

清正公大儀神

会所の
大坂と為て東へ
うと一ツ

清正公大儀神

二間表に家内の地と
欠為の大坂への
むかう心掛為りの景種
広瀬の金とりる
ゆく金四ツ縞の外
金個の外の入り金地の
出納と経さるくより雑波彩
地の絶物は入りひろう同西の蔵子
蔵井の蔵と海元中と為り
ものうち主人の金を
出ひ如き乱の別▲

清正公大儀神

清正公大儀神
清正公大儀神

つゞき
幸
藤
よ

幸

よ
幸

つぎき
仕送りと考るうち
思らうと云まして
まもなく和ありと
あちこと去まへ
なるほど見紙を出すと云
考るほど尚くも水知しなまべ早速
屋敷へ参ら一文書今三百円と更
えぐうもう紹介の海せる。彩て
のち面私い
女ふろぎう
で同間よ
ゆるも費重
べ私の方人同居

お玉葉矣へ
妾お上りづ
くる図
と考きんも花
んで
ゆるへ
の塊皮お茶と
久妾さんも煙ま
抜今で周ッて
ゆるうう
人同居ぜうう
之五八百ねう
海たいあって
のるゆ考
書と
次へ

銀
百

よ

幸
ち

よ

よ

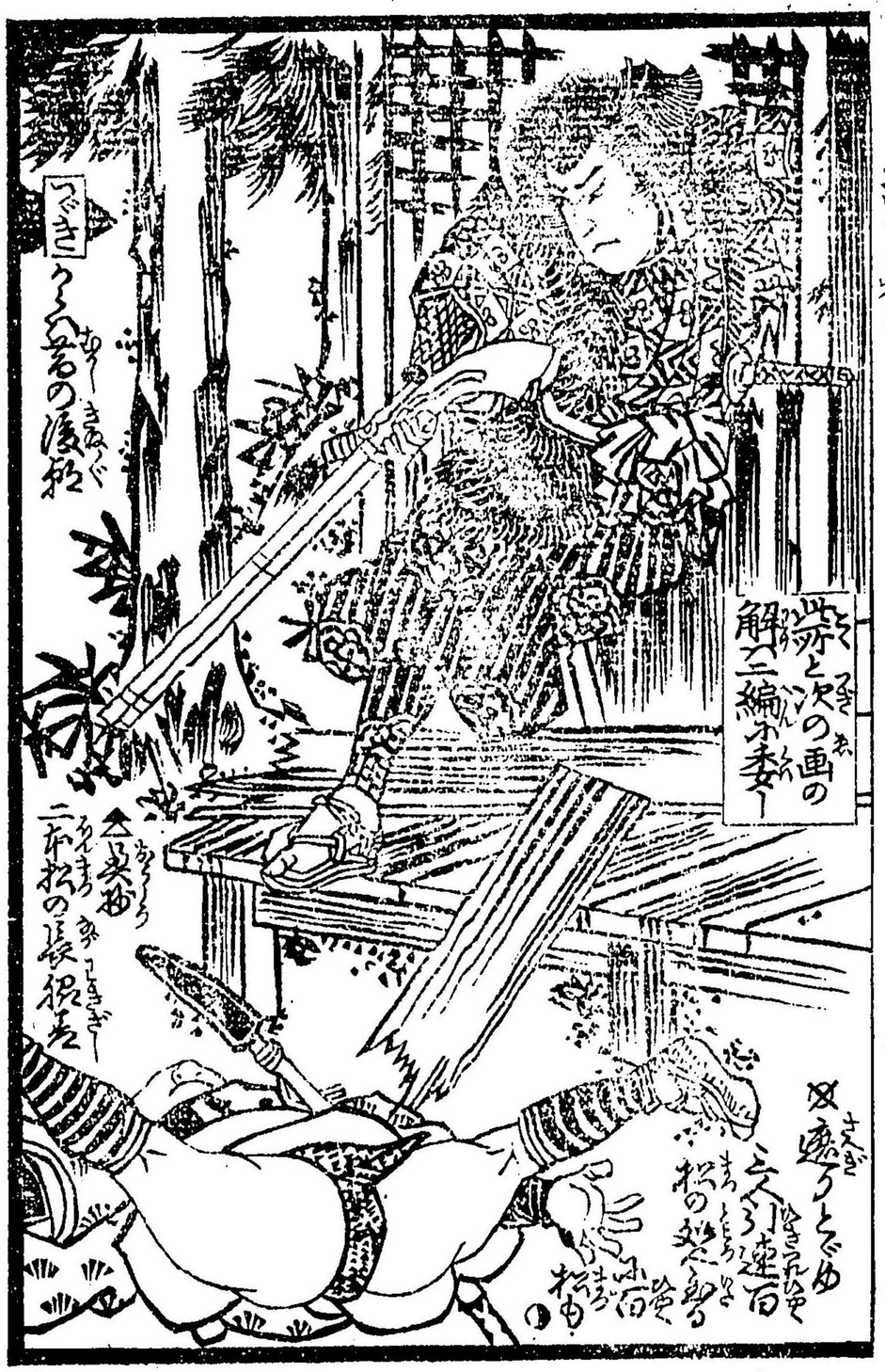
幸
長

百
り
ち

幸
長

幸
長

百
り


つぎき
二本松の長狙者
松の怒り
解説二編に委し

官許 朝鮮名法 牛肉丸

大包代二十五錢
中包代十錢五厘
小包代六錢二厘五毛

官許 たんせきの薬 天恭丸

一包代六錢二厘五毛

出板御届明治二十年七月十七日

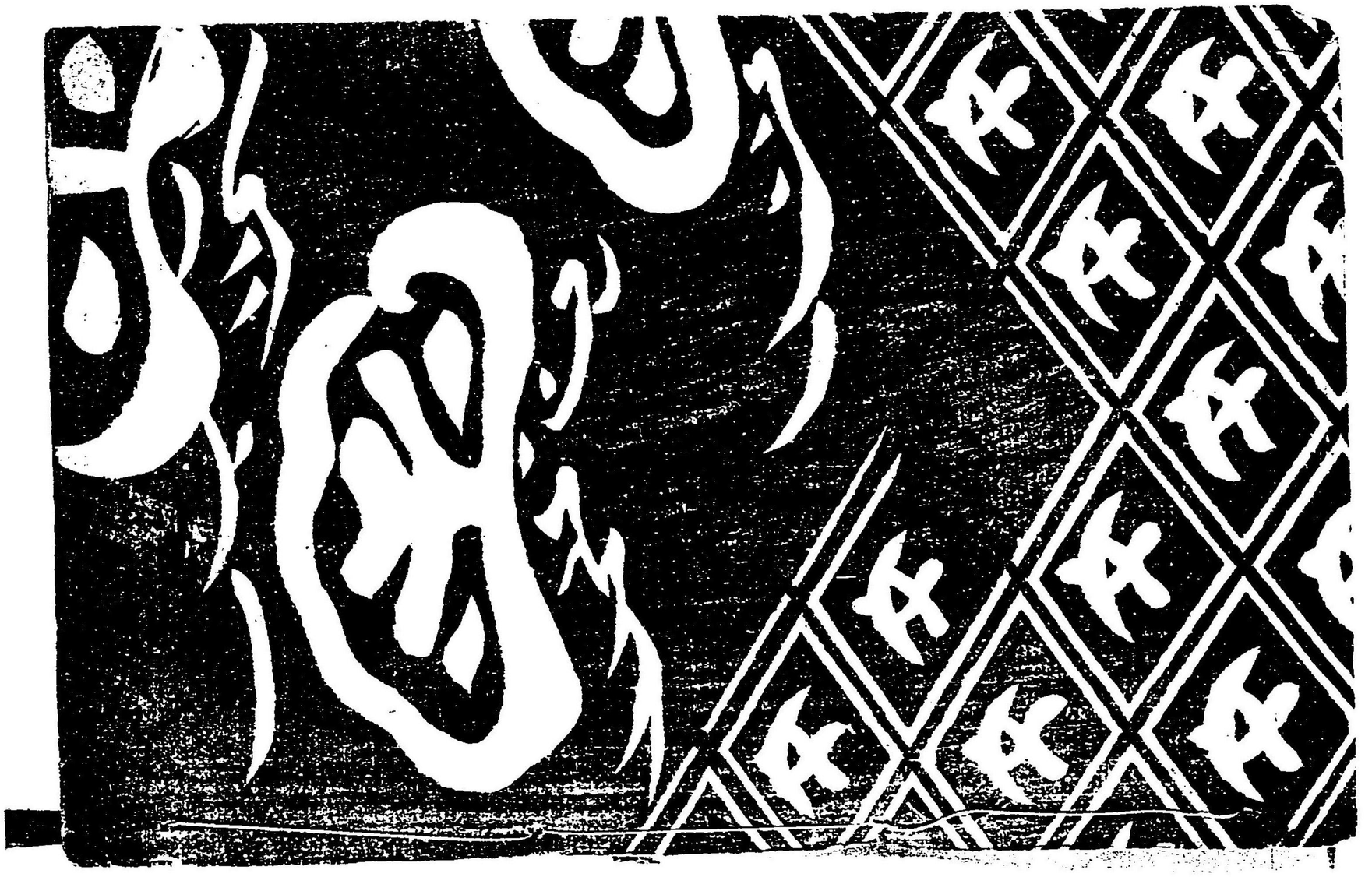
文地本錦繪問屋 金松堂

浅草花川戸二番地 伊東專三郎方同居 仮拾貳錢五厘

編輯人 伊東專二

日本橋區長谷川町三丁目二番地 出板人 辻岡文助

官許
朝鮮名法
牛肉丸
大色代二十五錢
中包代十二錢五厘
小色代六錢二厘五毛

官許
たくんせきの茶
天恭丸
一包代六錢二厘五毛

此茶は男女とも結髪びんつけ油の代用にもなり一つのとりあつかひ方にて髪の毛を光沢よくし黴を除き髪の毛を長くし白髪を黒くし髪の毛の根を強くし髪の毛の抜けるを防ぎ髪の毛の生えるを速やかにし髪の毛の長くなるを速やかにし髪の毛の白くなるを防ぎ髪の毛の黒くなるを速やかにし髪の毛の光沢を増し